

豊富なコンテンツを活かし、生徒が主体的に学べる環境を構築 Managed Hostingにより安全で効率的な運用も実現

アメリカン スクール イン ジャパン



所在地:

調布キャンパス
東京都調布市野水1丁目1-1
六本木キャンパス
東京都港区六本木6丁目16-5

- 設立:1902年
- 学生数:1630名
(平成27年度)

アメリカンスクールインジャパン(以下、ASIJ)は、1902年に設立され、100年以上の歴史を持つインターナショナルスクールです。東京・六本木(保育園・幼稚園)と調布(幼稚園・小中高校)にキャンパスがあり、乳幼児から高校生まで約1600人の生徒が在籍し、約160名の教師が指導に当たっています。生徒の出身地は44カ国、教師の出身地も12カ国と、まさに国際色豊かな環境の中で生徒たちは学校生活を送っています。教育水準の高さには定評があり、多くの卒業生が国内外の名門大学に進学しています。

万一の事態が起きても学習を継続できる環境を構築

ASIJでは、2002年からBlackboardのLMS(Blackboard Learn)を活用しています。その理由について、テクノロジーディレクターのユージーン・ウィット氏は次のように語ります。

「1つの理由として、私たちは授業とeラーニングを組み合わせたブレンディッド・ラーニングを追求してきたので、それを実現するソリューションとして、LMSを必要とすることが挙げられます。そして、もう1つの理由はリスク対策です。2000年頃、中東地域でテロが頻発したため、現地のインターナショナルスクールなどでは、学校が一時閉鎖に追い込まれたり、生徒や家族を避難させる必要が生じて、LMSを使って授業を継続させる方法を模索していました。一方、日本にいる私たちが心配したのは、地震と、当時猛威をふるっていたSARS(鳥インフルエンザ)などの世界的な感染症の流行(パンデミック)でした。現実には中国では、パンデミックのために長期にわたって閉鎖を余儀なくされた学校がありました。このような事態に備えて、私たちが選んだのがBlackboardでした。なぜなら、海外の多くの学校で、機能とセキュリティの両面から、Blackboardが利用されていたからです。Blackboardを導入し、教師やスタッフと準備してきたおかげで、東日本大震災が起きた時には、実際に一定期間学校を閉鎖しても、教育を継続させることができました」(ウィット氏、以下同)

Managed Hosting への移行により、運用面の不安も解消

2014年には、それまで自前でサーバを設置して運用してきた方法から、BlackboardのクラウドサービスであるManaged Hostingに切り替えました。

「ホスティングに切り替えたのは、今後、さらに大きな地震が起こることを懸念したか



“授業では講義はほとんど行いません。反転授業は当たり前になっています。”

“生徒は、授業時間外に、自分あるいはグループで学習します。Blackboardはこのような学習を完璧に実現してくれます。”

“Managed Hostingに移行して、運用面の不安は解消されました。サーバの管理要員は、他の仕事をするできるようになりました。”

Director of Technology
ユージーン ウィット 氏

からです。地震によって、もしサーバームがダメージを受ければ、これまで蓄積してきた数多くのコンテンツを失うこととなります。バックアップをとっていたとしても、新たなサーバの購入やセットアップなど、復元には時間がかかってしまいます。そのことを教師は皆心配していました」

Managed Hostingへの移行にあたり、心配したのが通信速度だといいます。

「学校では動画など、比較的容量の大きなファイルをたくさん利用するため、サーバが国内にあった頃から通信速度が保てるように配慮してきました。それだけに、Managed Hostingのサーバはシンガポールに置かれると聞き、最も心配したのが通信速度でした。その時、Blackboardの日本総販売代理店であるアシストマイクロに依頼して、スピードチェックのためのテスト環境をBlackboardに用意してもらいました。テストの結果、かなり大きなファイルのアップロードでは若干遅く感じたものの、実用的にはほとんど問題がないことがわかりました」

Managed Hostingへの移行は、ASIJにもう1つ大きなメリットをもたらしました。それは、Blackboardの運用を管理する専任の技術者を置く必要がなくなったことです。

「自前でサーバを運用していた頃は、Blackboardを確実に機能させるために、常時チェックし、バックアップをとるスタッフが必要でした。しかし、ホスティングに移行してからは、そのスタッフには別の分野を担当してもらえるようになりました。ホスティングには新たな費用がかかるものの、専任スタッフを置く必要がなくなったことで、その費用も正当化できるのです。また、以前はサーバのアップグレードをするたびに、トラブルが起きないかどうか、神経を削られましたが、今は全く心配しなくてよくなりました。ホスティングに切り替えたことで、安心してBlackboardを運用できるようになりました」

「反転授業」の実施に最適な環境を実現

現在、ASIJにおけるBlackboardのアクティブユーザ数は898名。高校の全生徒と、中学の大部分の生徒が利用しています。直近の利用状況では、1日当たりのページビューは平均5,000件。多い日は10,000件に上ります。Blackboardはどのように活用されているのでしょうか。

「アメリカでは教育に反転授業が導入されており、授業では殆ど講義を行わず、グループワークを行うことが主流になっています。教師は、生徒が授業に参加する上で必要なリソースを探し出して生徒に提示し、生徒はそのリソースを使って自ら学習します。リソースは教師や学校独自のものに限りません。非営利の教育WebサイトやYouTubeなど、外部のコンテンツも積極的に活用します。Blackboardは、このような授業を行うのに最適なツールです。教師が動画や文献など、さまざまなリソースを置いておくことのできるスポットとして機能するからです。高校生は全員ノートパソコンを持っており、キャンパスの外からでもBlackboard上の必要なコンテンツにアクセスすることができます」

Blackboardは、反転授業を実施するためのツールとして大いに活用されているのです。

キャンパスの外からも授業や学習に参加できる

Blackboardでコンテンツを一元的に管理する仕組みは、忙しい高校生にとっても有益だとウィット氏は語ります。

「高校生になると、常に授業に出席できるわけではなく、スポーツや音楽などの遠征旅行に出かけたり、米国の大学・短大の授業に出席したりすることもあります。このように生徒が授業に出席できない場合でも、Blackboardに教材

やグループワークのドキュメントなどがアップロードされていれば、生徒はどこからでもアクセスすることができ、自己学習したり、他の生徒との共同作業に参加したりすることができます」

ウィット氏によれば、以前は教師が自ら教材を作成することが多かったものの、最近は無料で利用できる教材が増えているため、それらを活用することが多いそうです。代表的な教材の一つに、カーンアカデミー（Khan Academy）のビデオ教材があります。カーンアカデミーには日本語吹き替え版（<https://ja.khanacademy.org>）もあります。

「生徒が授業を欠席した場合は、カーンアカデミーのビデオ教材で学習させるようにしています。この教材は非常にクオリティが高く、授業と同等の教育を行うことができます。教師は担当する教科のコース上に、このようなビデオ教材のリンクを張ることで、生徒はどこからでもコース・コンテンツにアクセスして学習することが可能になります」

教師と生徒、関係者との多様なコミュニケーションに活用

ASIJの上級クラス(Advanced Placement class = APクラス)で上級環境科学コースを担当する教師は、ほぼ全てのコースの内容をBlackboardに載せています。また、生徒がアメリカの大学に入学するための試験を受ける前には、受験の心得など、生徒に役立つ情報をBlackboard上で提供します。そのおかげで受験に臨む生徒たちは、どこにいてもしっかりと受験準備をすることができます。このようにASIJでは、授業以外にもさまざまな場面でBlackboardを活用し、教育の効果や学校運営の効率を高めるために役立てています。

〈その他の活用例〉

・期末テストの時期が近づくと、生徒に復習の機会を与えるために、教師は復習用の問題を作成してBlackboardにアップロードします。そして、生徒に2日間ほど考える時間を与え、その後、問題の解答や解説を提示します。

・ASIJには、年末になると生徒が教師を評価する制度があります。その際は、調査票をBlackboardに載せ、生徒からのコメントをフィードバックできるようにしています。

・セキュリティが強固なため、理事会やPTAのコミュニケーションツールとしても活用されています。

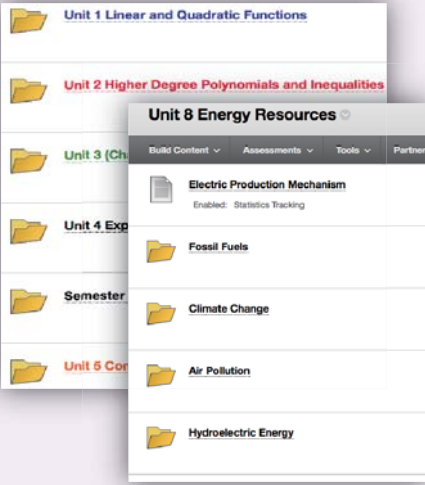
日本の教育界でも昨今、教育効果を高める方法としてアクティブラーニングや反転授業などが注目を集めていますが、ASIJはその環境をいち早く実現して成果を上げてきました。今後も、Blackboardを活用したASIJの先進的な取り組みが注目されます。

〈ユーザの声〉

1カ所にあらゆる情報を集約できるのは、生徒にも教師にもメリット — 高校 日本語担当 Hakone 先生

Blackboardは、各生徒との間でeポートフォリオを作って共有できるところが気に入って、10年近く使ってきました。eポートフォリオには、学習に関する全ての記録を残すようにします。それにより、毎年度末に、生徒自身に1年前と最後に作ったり書いたりしたものを比較させて、成長度合いを本人に実感させることができます。

しかし、ASIJでの運用上の制限から、毎年eポートフォリオの記録が削除されてしまうため、その都度バックアップを取らなければならないのが不便で、今年からはGoogleドライブでeポートフォリオを運用しています。



Blackboard Learn from ASIJ

Unit 1 Linear and Quadratic Functions

Unit 2 Higher Degree Polynomials and Inequalities

Unit 3 (Ch...

Unit 4 Exp...

Semester

Unit 5 Co...

Unit 8 Energy Resources

Build Content Assessments Tools Partner

Electric Production Mechanism
Enabled: Statistics Tracking

Fossil Fuels

Climate Change

Air Pollution

Hydroelectric Energy

Environmental Science(環境科学)コースと
Pre Calculus(微分積分予備)コースのユニット

生徒が学習しなければならない多彩なコンテンツと、量の多さが見て取れる。



“eポートフォリオを利用して、成長度合いを本人と確認できる点など、Blackboardがとても気に入っています。”

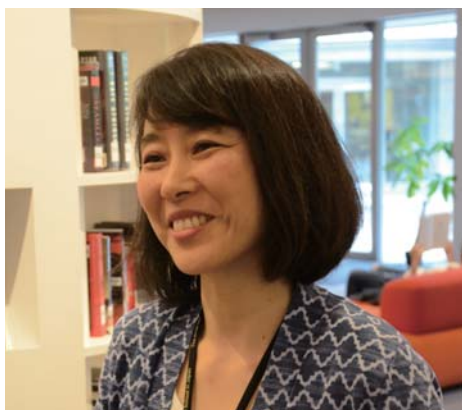
高校 日本語担当
Hakone 先生

Blackboardはeポートフォリオ以外にも、さまざまな場面で活用しています。授業でグループワークを行う際には、Blackboard上にグループを作り、そこに生徒たちが作ったファイルや、役立つリンク先などを全てアップロードすることによって、同じグループの生徒同士や、各グループと私との間で共有できるようにしています。宿題もBlackboard上で指示しています。

また、オンラインテストにもBlackboardを活用しています。実施する日時や回数が設定でき、結果が一覧できる機能が便利です。特にテキストチャットでテストを行う場合、私からの質問に対して、生徒が個別に回答するわけですが、その回答は私にしか見られないように設定することができますし、各生徒が回答した時刻も把握できます。このテキストチャット機能は、生徒同士のディスカッションにも活用しています。

Blackboardを活用することにより、学習や授業運営に必要なあらゆる情報を1カ所に集約できることは、生徒にとっても教師にとっても、とても便利で有効だと思います。

プリテストを作成・実施することで生徒ごとのレベルを把握 — 中学校 日本語担当 Nakamura 先生



“プリテストで全体のレベル感を把握。授業内容を検討し、生徒のレベルに応じて達成目標を設定するようにしています。”

中学校 日本語担当
Nakamura 先生

以前、小学校で日本語を教えていた頃に初めてBlackboardを使いました。当時は家庭で日本語を話していないノンネイティブの生徒に日本語を教える担当でした。中には日本語にある程度触れてきた生徒もいるため、日本語のレベルには個人差がありました。そこで、誰がどの程度の言葉や文法を知っているか把握するために、Blackboardを使って単語や文法など、さまざまな種類の日本語のクイズを作りました。そのクイズで授業前にプリテストをして生徒のレベルを把握したり、その後も定期的にテストを行うことで生徒の成長度合いを確認したりしました。また、テストとは異なる内容のクイズを作り、宿題にしたり、生徒が自由に練習できる教材として活用したりしました。

2年前に中学校に異動してからは、クラスの生徒の日本語レベルにかなりの差があるので、授業の新しい単元が始まるタイミングでプリテストを行い、全体のレベル感を把握して授業の内容を検討したり、各生徒のレベルに合わせて必要なチャレンジを与えたりしています。

Blackboardの良いところは、生徒がいつ、何回そのクイズを解いたかという履歴を確認できることです。出題の順番が自動的に変えられるところもいいですね。また、クイズの答えが正解か間違いか、その解説も含めてすぐに自動でフィードバックされるように設定できるので、生徒にとっても学びやすい教材が提供できると思います。

本導入事例は2016年5月の取材に基づき作成したものです。記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

販売元

 AssistMicro

アシストマイクロ株式会社 Blackboard Japan Project
〒164-0012 東京都中野区本町 3-31-11 YUWA ビル 7F
TEL: 03-5302-2981 FAX: 03-5302-2844
<http://www.blackboard.jp/>
E-mail: bb_sales@assistmicro.co.jp

開発元

 Blackboard®

Blackboard Inc.
1111 19th Street, NW
Washington, DC 20036
USA

Copyright (c) 2016 ASSISTMICRO Co., Ltd. All rights reserved.